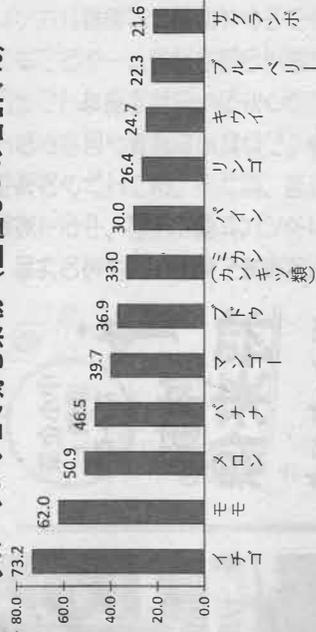


フルーツパフエで好む果物（上位5つの合計、%）



果物消費習慣の定着へ フルーツパフエ活用を

中央果実協会

果物の消費習慣を醸成する方法として、フルーツパフエが有効であることが、中央果実協会の調査でわかった。特に若い世代へ向け積極的に活用したいところだ。

フルーツパフエを「好き」と回答した人は、全体で約8割。男性（52.9%）よりも女性（66.9%）の割合が高くなる。

8%）の割合が高くなる。年代別では20代（66.9%）が他の年代より高かった。喫食頻度は、「1か月1回以下」が大半を占めており全体の76.0%。購入・喫食チャネル（複数回答）は「カフェ・喫茶店」が56.8%で最も高く、次いで「ファミ

リーレストラン」（47.1%）、「果物専門店（フルーツパティ）」（23.3%）などが続く。フルーツパフエで好む果物（上位5つまで回答したもの）を合計すると、「イチゴ」が73.2%で最も高く、「モモ」が62.0%

。「メロン」が50.9%で続く（左から）。男女で好みに特徴がみられ、男性は「イチゴ」の割合が、女性は「イチゴ」「モモ」が顕著に高くなっており、それぞれ男女で15%近く差がある。

また年代別になると、高年代ほど「イチゴ」「メロン」の割合が高く、性別との掛け合わせでは、女性30～50代で「イチゴ」が8割を超える。ふだん食べるフルーツパフエの価格帯（税込）は、「500～999円」が47.8%で最多。「1000円～1499円」が25.4%で続いており、500～1499円が7割以上を占めるとなる。なお、「1500～1999円」は5.0%、「2000円以上」は1.7%だった。昨今、2000円前後の高価格帯のフルーツパフエもなされるが、「高級の花」の存在であることがうかがえる。

ただ年代別にみると、低年代ほど1000円以上の割合が高くなる傾向があり、20代では4割を

超える。若い世代の果物消費習慣の拡大と定着に「パフエ」の積極活用が有効となりそうだ。調査は2023年10月26日～30日に、全国の20歳以上70歳未満の男女2062人を対象に行われた。

超える。若い世代の果物消費習慣の拡大と定着に「パフエ」の積極活用が有効となりそうだ。調査は2023年10月26日～30日に、全国の20歳以上70歳未満の男女2062人を対象に行われた。